

学生生活実態調査報告書

(概要版)

2018年版

北海道大学学務部

【目次】

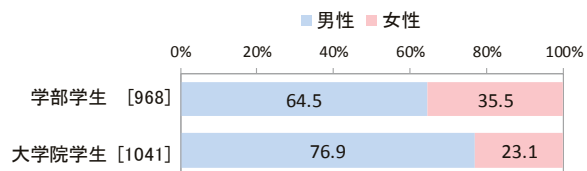
A 回答者の基本的特徴	2	G- II 大学院学生の研究活動	14
回答者の男女比		所属学会数	
入学までの年数		研究会・学会等の発表回	
年齢		論文執筆数	
B 家庭状況	2	外国語の能力	
出身地		海外での調査研究経験	
家計支持者		海外留学の経験	
家計支持者の職業		海外留学の意向／希望する留学期間	
家庭の年間総年収		研究・学業を進める上で大学に要望すること	
C 住居・通学・食事の状況	4	H 北大の学校生活	17
住居形態／占有面積		学生生活の満足度	
入寮希望とその理由		一日の平均自習時間	
通学方法／通学時間		自習を行う場所	
食事		入学後の学習・研究意欲	
学食の利用頻度		授業への出席率	
D 経済状況	7	大学で過ごす一日の平均時間	
月間収入額の分布		仲の良い友人の有無	
収入の内訳（月額）		友人との関係	
月間支出額の分布		教員との関係	
支出の内訳（月額）		アカデミック・サポートセンターの認知利用状況	
年間の研究旅費		大学院入学の目的	
経済状態の実感		北大大学院を志望した理由	
E アルバイトの状況	9	北大大学院の進学時の志望順位	
アルバイトの頻度		大学院入学前の出身大学等	
アルバイトの職種		I 健康状態	22
アルバイトの週平均就労時間		身体の調子／通院状況	
アルバイト収入の使いみち		悩み・不安	
アルバイトをする理由／アルバイトをしない理由		カウンセリングサービスの認知状況	
F 授業料免除と奨学金の利用状況	11	J ハラスメント及びカルト 宗教団体等の被害状況	24
授業料免除の状況		自身のハラスメント等の被害経験／	
奨学金の利用状況／奨学金の種類		他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験	
日本学術振興会特別研究員の給与		学生相談窓口の認知状況	
G- I 課外活動とボランティア活動	12	K 進路の希望	25
課外活動団体への加入の有無／課外活動の週平均活動時間		卒業後の進路希望／修了後の進路希望	
ボランティア活動の経験の有無／ボランティア活動内容		博士後期課程に進学しない理由	
ボランティア活動相談室の認知利用状況		希望職種	
		就職で重要視すること	
		就職希望地域	
		インターンシップへの参加経験	
		キャリアセンター利用状況	

学生生活実態調査とは、本学学生の生活実態や本学に対する期待・要望などを把握し、学生の生活・修学・進路などの支援体制の充実を図るための基礎資料を得るとともに、入学前の学生への広報活動に活用することを目的として、4年に1回実施されているものです。この報告書は、平成29年11月に実施された調査結果をとりまとめたものです。

A 回答者の基本的特徴

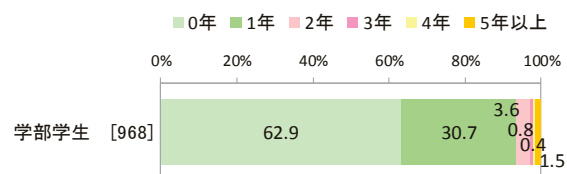
■ 回答者の男女比

- 学部学生の回答者は、「男性」(64.5%)、「女性」(35.5%)である。
- 大学院学生の回答者は、「男性」(76.9%)、「女性」(23.1%)である。



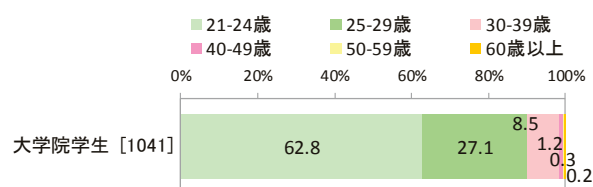
■ 入学までの年数(学部学生のみ)

- 現役入学者(「0年」)比率は、62.9%である。



■ 年齢(大学院学生のみ)

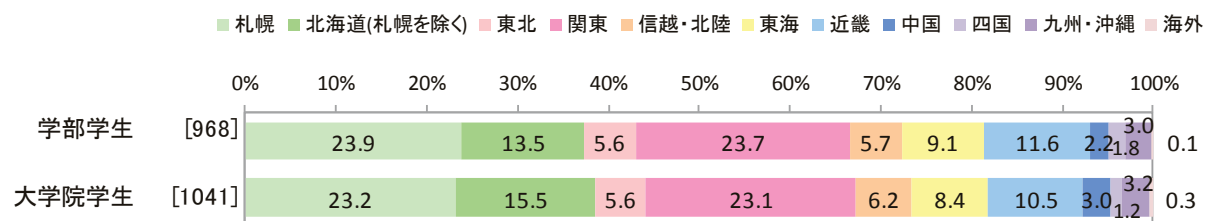
- 年齢は、「21-24歳」が62.8%であり、「25-29歳」(27.1%)を合算した20代の学生は、89.9%を占める。



B 家庭状況

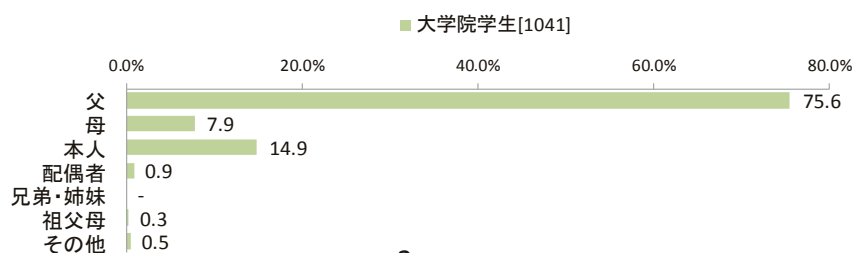
■ 出身地

- 学部学生の「札幌」出身者は、23.9%、札幌を含む道内出身者は37.4%である。道内出身者に次いで多いのは、「関東」(23.7%)である。
- 大学院学生は、「札幌」出身者が23.2%、また札幌を含む道内出身者は38.7%である。道内出身者に次いで多いのは、学部学生と同じく「関東」(23.1%)である。



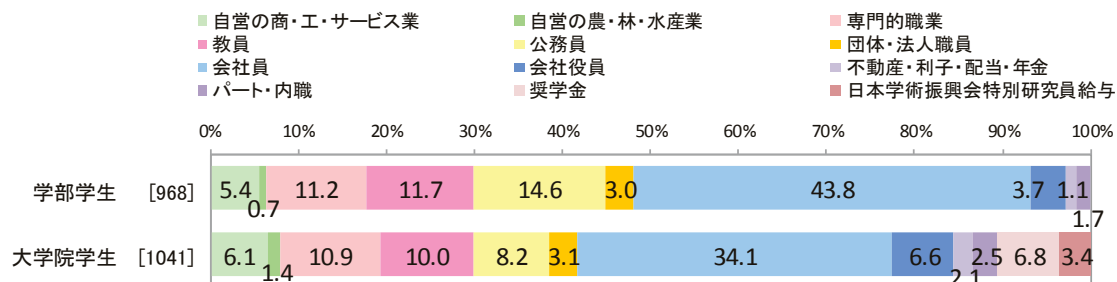
■ 家計支持者(大学院学生のみ)

- 家計支持者は、「父」が75.6%と最も多い。次いで、「本人」が14.9%、「母」が7.9%である。



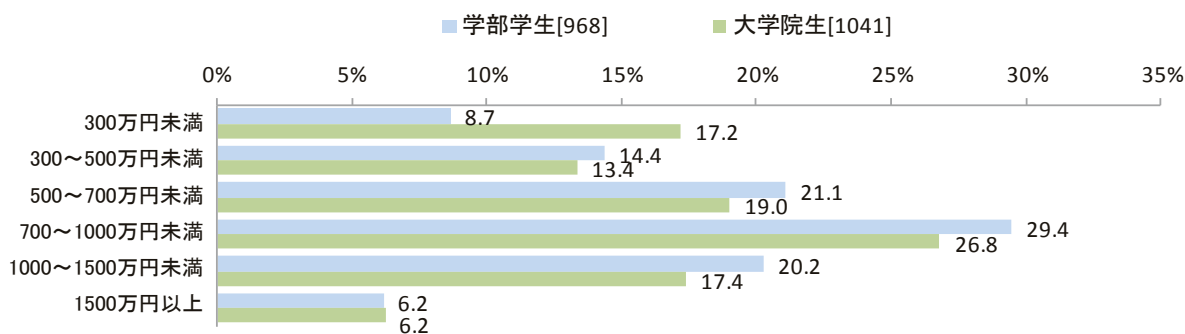
■ 家計支持者の職業

- 学部学生・大学院学生ともに、家計支持者の職業は、「会社員」が最も多く、次いで「教員」、「公務員」、「専門的職業」である。



■ 家庭の年間総収入

- 家庭の年間総収入は、学部学生・大学院学生ともに、「700～1000万円未満」が最も多く、次に「500～700万円未満」、「1000～1500万円未満」と続く。

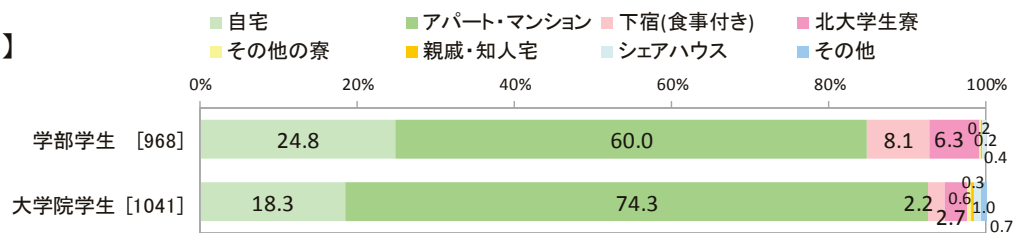


C 住居・通学・食事の状況

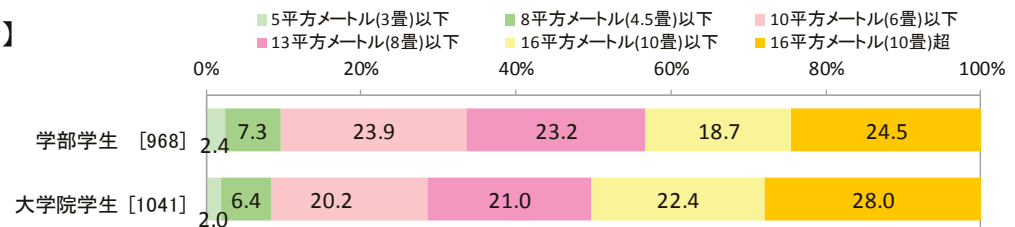
■ 住居形態／占有面積

- 学部学生・大学院学生ともに「アパート・マンション」が最も多く、次いで「自宅」となる。「自宅」は学部学生の方が多く、「アパート・マンション」は大学院学生の方が多い。また、学部学生は「北大学生寮」が6.3%であった。
- 占有面積は、学部学生・大学院学生ともに「10平方メートル(6畳以下)」「13平方メートル(8畳以下)」「16平方メートル(10畳以下)」「16平方メートル(10畳超)」の比率がほぼ同程度で面積は様々である。

【住居形態】



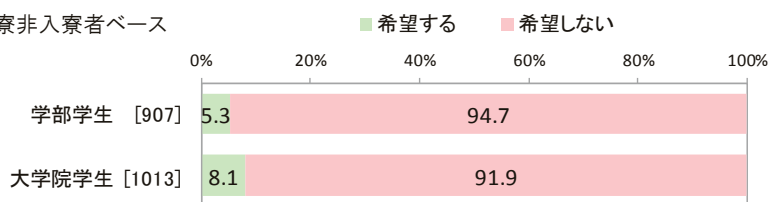
【占有面積】



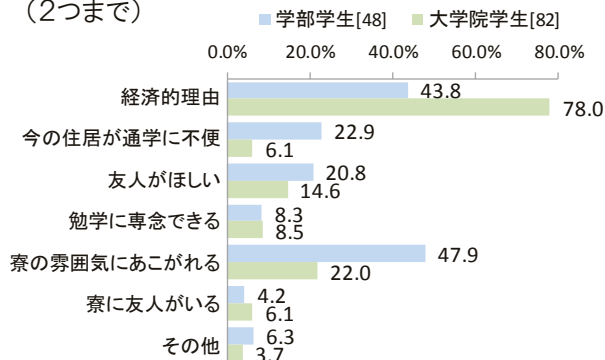
■ 入寮希望とその理由

- 学部学生で入寮希望があるのは5.3%、大学院学生は8.1%である。
- 入寮を希望する理由は、学部学生・大学院学生ともに「経済的理由」が最も多く、特に大学院学生が多い。次いで、「寮の雰囲気にあこがれる」である。
- 入寮を希望しない理由は、学部学生・大学院学生ともに「集団生活がわずらわしい」が最も多い。

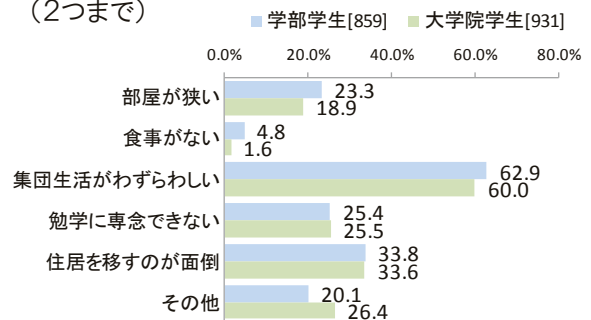
【入寮希望者の割合】 ※学生寮非入寮者ベース



【入寮を希望の理由】 ※入寮希望者ベース (2つまで)



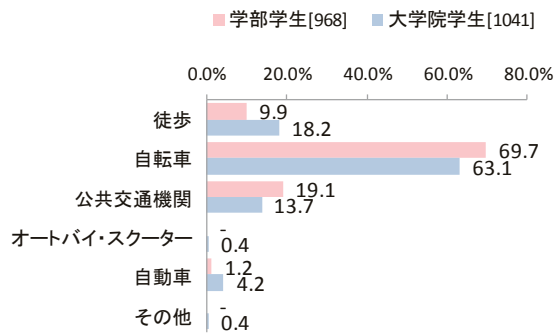
【入寮を希望しない理由】 ※入寮非希望者ベース (2つまで)



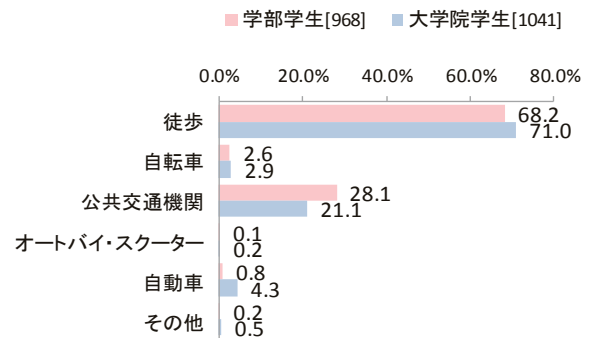
■ 通学方法／通学時間

- 春から秋の通学方法は、学部学生・大学院学生ともに「自転車」通学が圧倒的に多い。次いで「公共交通機関」や「徒歩」である。通学時間は、学部学生・大学院学生ともに「10分未満」が45%前後で最も多い。
- 冬季の通学方法は、雪の影響か学部学生・大学院学生ともに「徒歩」が圧倒的に多い。次いで「公共交通機関」である。通学時間は、学部学生・大学院学生ともに「10～20分未満」が4割弱で最も多い。

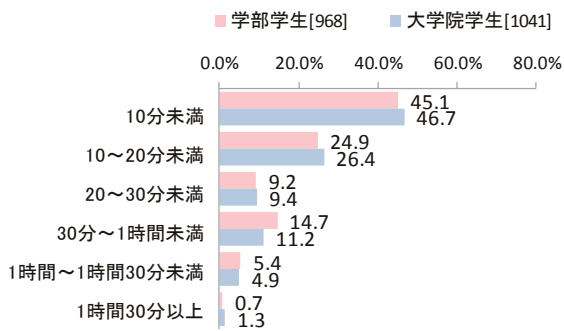
通学方法【普段(春～秋)】



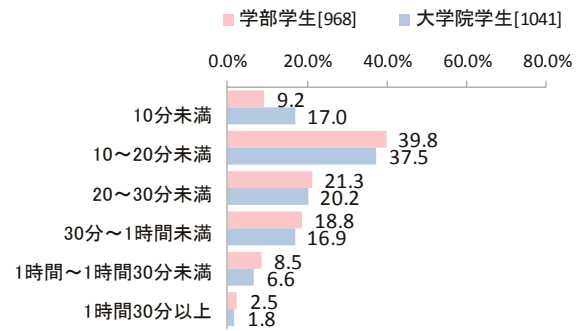
通学方法【冬季】



通学時間【普段(春～秋)】

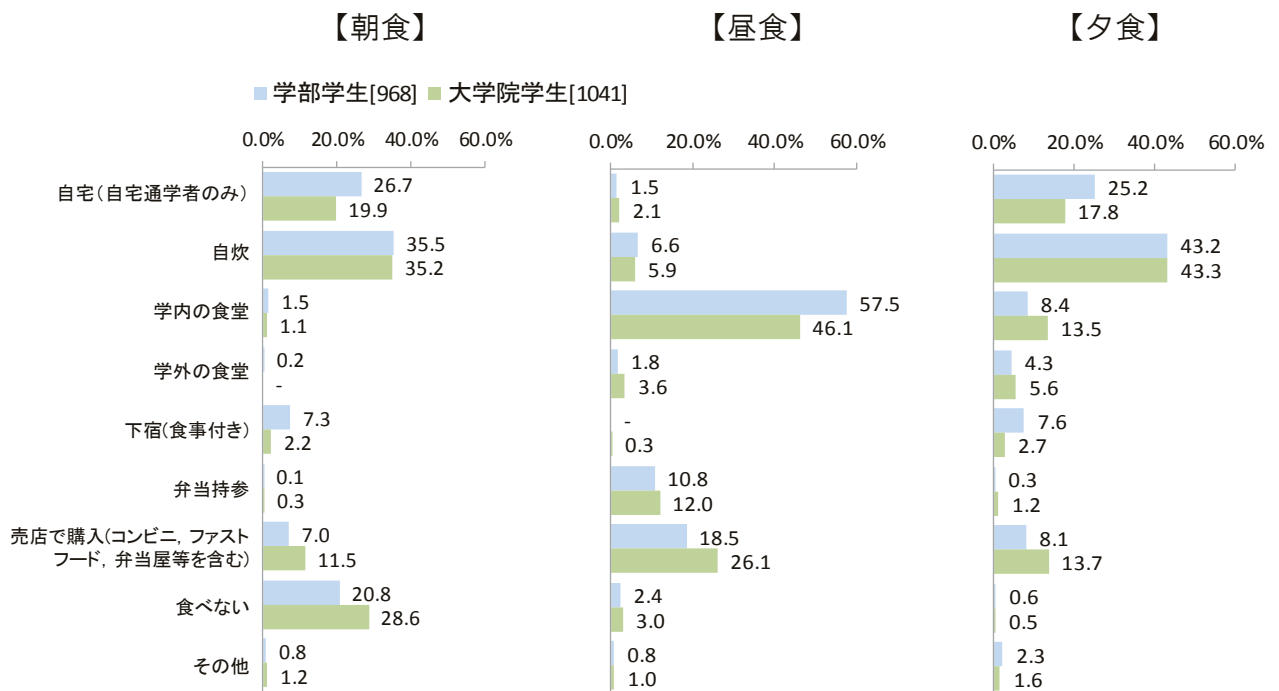


通学時間【冬季】



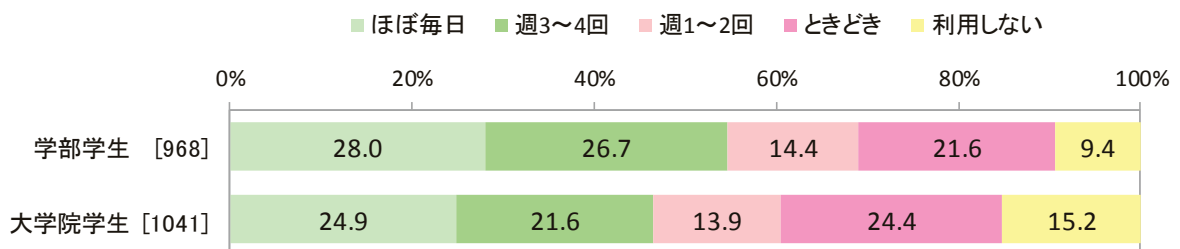
■ 食事

- 学部学生・大学院学生ともに、朝食を「自炊」している学生は35%前後。「自宅」を含めると、学部学生で62.2%、大学院学生で55.1%となる。一方「食べない」学生は、学部学生が20.8%、大学院学生が28.6%である。
- 昼食は、「学内の食堂」が学部学生は57.5%で、大学院学生は46.1%で最も多い。次いで「売店で購入」が多い。
- 夕食は、学部学生・大学院学生とも「自炊」が最も多い(ともに43.2%、43.3%)。次に「自宅」である。大学院学生はそれ以外に「学内の食堂」や「売店で購入」も利用している。



■ 学食の利用頻度

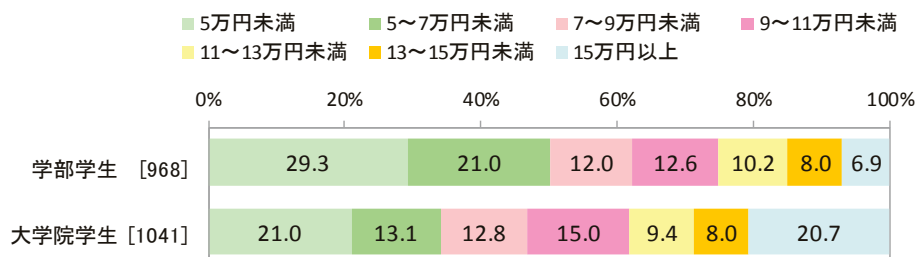
- 学食の利用状況は、学部学生・大学院学生ともに「ほぼ毎日」が四分の一程度。また「週3~4回」を含めると5割前後の学生が学食を利用している。一方「利用しない」学生も、学部学生・大学院学生ともに1割前後みられる。



D 経済状況

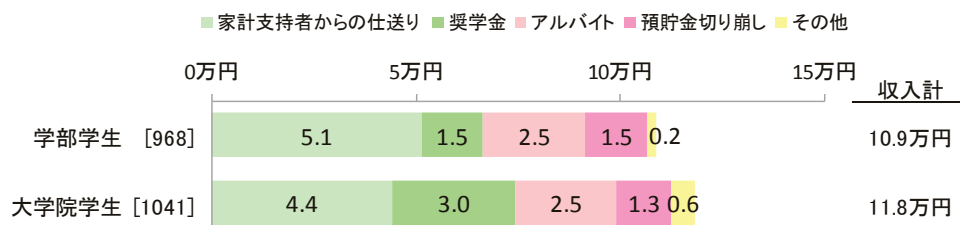
■ 月間収入額の分布

- 学部学生・大学院学生を比較すると、「5万円未満」、「5～7万円未満」では、学部学生の占める割合が高く、「15万円以上」では、大学院学生の方が多くなる。



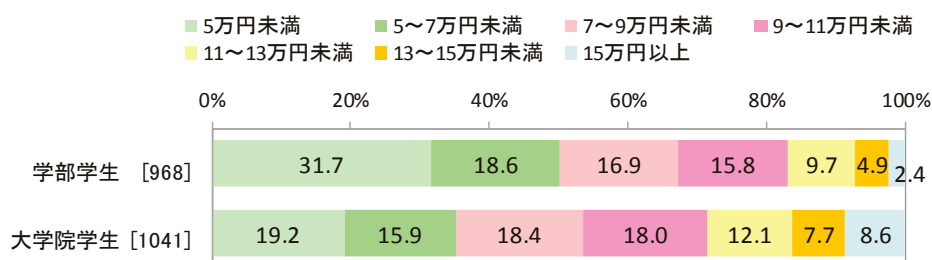
■ 収入の内訳(月額)

- 平均月間収入額は、学部学生が10.9万円。大学院学生が11.8万円である。
- 学部学生・大学院学生のどちらも「家計支持者からの仕送り」が最大の収入項目である。
- 大学院学生は、学部学生に比べ「奨学金」の貸与が多い。



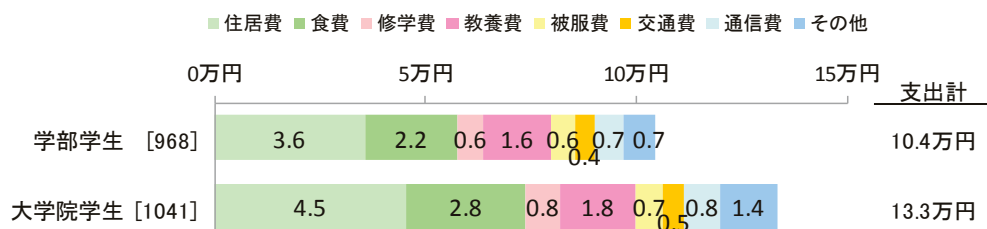
■ 月間支出額の分布

- 学部学生の月間支出額は、「5万円未満」が31.7%、「5～7万円未満」18.6%、「7～9万円未満」16.9%である。
- 大学院学生は、「5万円未満」が19.2%、「5～7万円未満」15.9%、「7～9万円未満」18.4%である。学部学生と比べると、月間支出額が「7万円未満」の学生が少なく、「9万円以上」が多い。



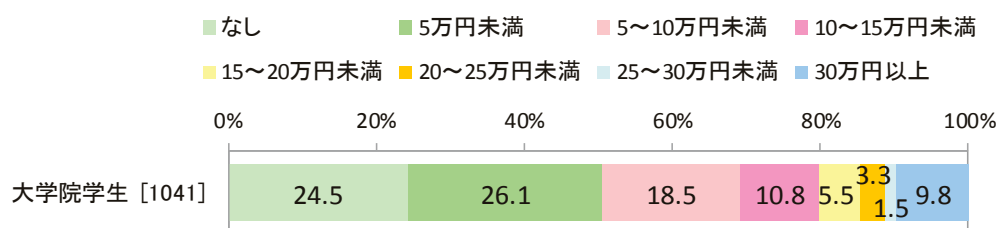
■ 支出の内訳(月額)

- 平均月間支出額は、学部学生が 10.4 万円、大学院学生が 13.3 万円である。学部学生・大学院学生ともに「住居費」が最大支出項目で、次いで「食費」となっている。



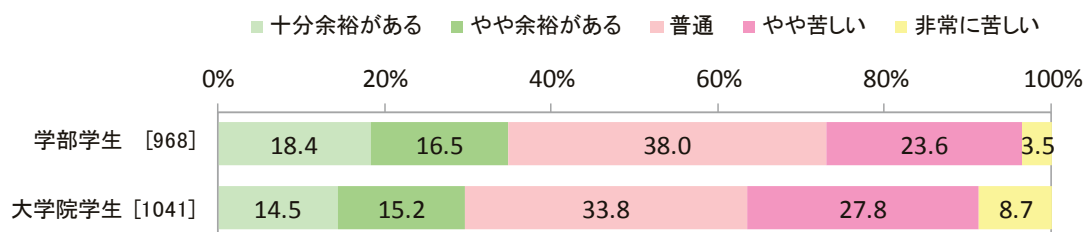
■ 年間の研究旅費(大学院学生のみ)

- 年間の研究旅費は、「5万円未満」が 26.1%、「5～10万円未満」が 18.5%であり、「10万円未満」で 44.6%を占める。一方、「なし」は、およそ 4 人に 1 人である(24.5%)。



■ 経済状態の実感

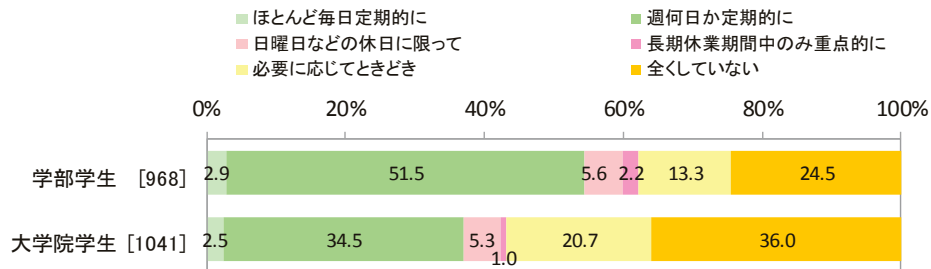
- 現在の経済状態は、学部学生で「十分余裕がある」が 18.4%、「やや余裕がある」が 16.5%で、合わせると「余裕がある」の割合は 34.9%である。一方、「やや苦しい」(23.6%)、「非常に苦しい」(3.5%)を合わせると 27.1%であった。
- 大学院学生は、「十分余裕がある」が 14.5%、「やや余裕がある」が 15.2%で、合わせると「余裕がある」の割合は 29.7%である。一方、「やや苦しい」(27.8%)、「非常に苦しい」(8.7%)を合わせると 36.5%であった。
- 学部学生に比べ、大学院学生は、「苦しい」「非常に苦しい」の占める割合が多い傾向がある。



E アルバイトの状況

■ アルバイトの頻度

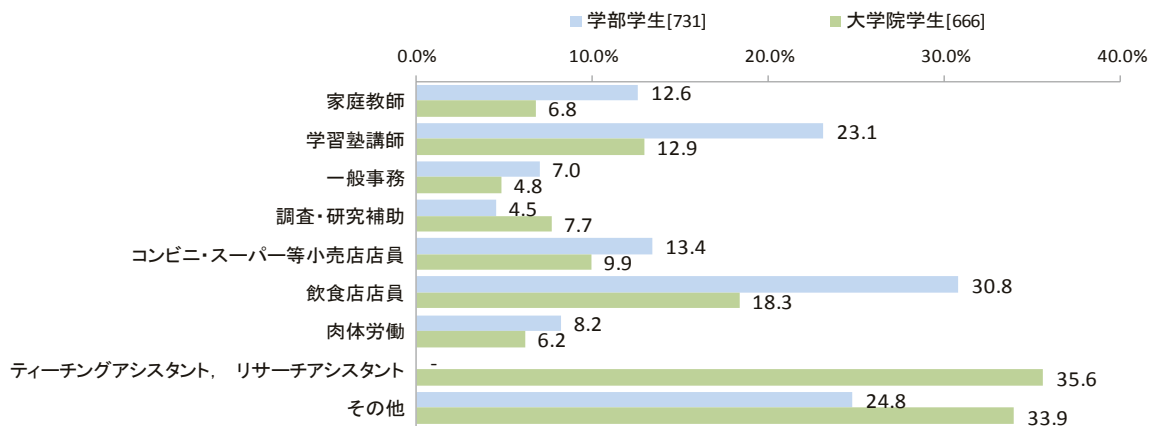
- アルバイトを「全くしていない」学生は、学部学生が24.5%、大学院学生が36.0%である。一方、アルバイトをしている学生のうち「週何日か定期的に」が学部学生(51.5%)、大学院学生(34.5%)であり、ともに最も多い。



■ アルバイトの職種(2つまで)

※アルバイト従事者ベース

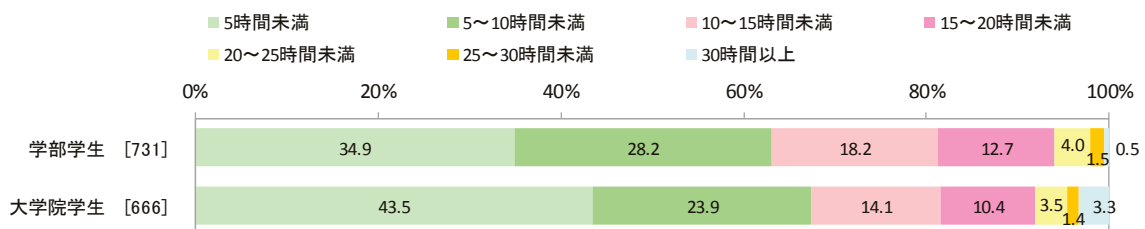
- 学部学生は「飲食店員」(30.8%)、大学院学生は「ティーチングアシスタント、リサーチアシスタント」(35.6%)が最も多い。それ以外に、学部学生は、「学習塾講師」、「コンビニ・スーパー等小売店員」、「家庭教師」である。大学院学生は、「飲食店員」、「学習塾講師」である。



■ アルバイトの週平均就労時間

※アルバイト従事者ベース

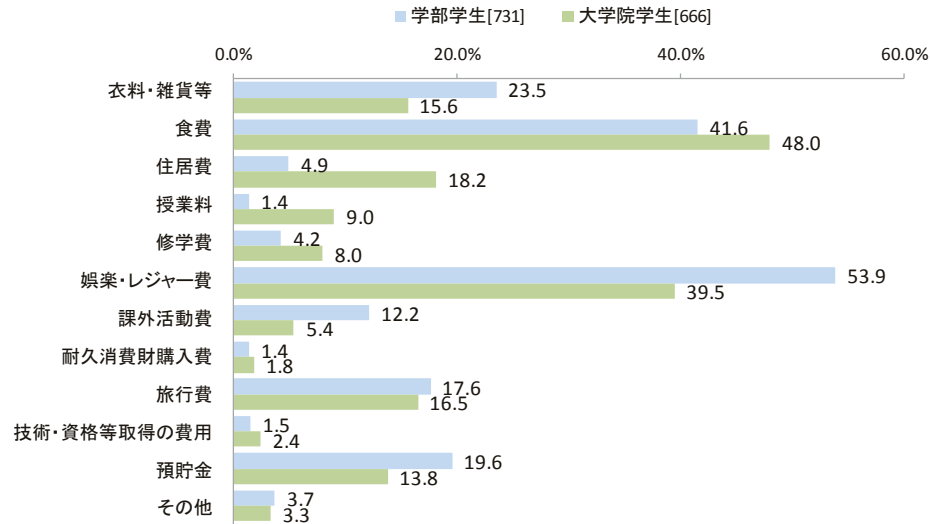
- 学部学生・大学院学生ともに「5時間未満」が最も多く、次に「5～10時間未満」が多い。



■ アルバイト収入の使いみち(2つまで)

※アルバイト従事者ベース

- 学部学生は、「娯楽・レジャー費」(53.9%)が最も多く、次に「食費」(41.6%)、「衣料・雑貨等」(23.5%)と続く。
- 大学院学生は、「食費」(48.0%)が最も多く、次に「娯楽・レジャー費」(39.5%)と続く。
- 学部学生・大学院学生ともに「預貯金」に充てる学生は1~2割程度。「授業料」や「修学費」は1割以下に留まる。

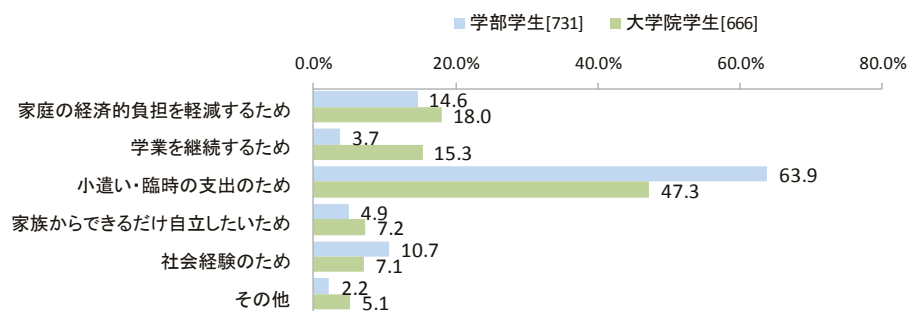


■ アルバイトをする主な理由／アルバイトをしない主な理由

- アルバイトをする理由は、「小遣い・臨時の支出のため」が、学部学生(63.9%)、大学院学生(47.3%)ともに最も多い。
- それ以外に学部学生は、「家庭の経済的負担を軽減するため」(14.6%)、「社会経験」(10.7%)が続く。
- それ以外に大学院学生は、「家庭の経済的負担を軽減するため」(18.0%)が続き、その後「学業・研究を継続するため」(15.3%)が続く。
- アルバイトをしない理由は、学部学生・大学院学生ともに「時間に余裕がない」が最も多く、次に「必要がない」が続く。

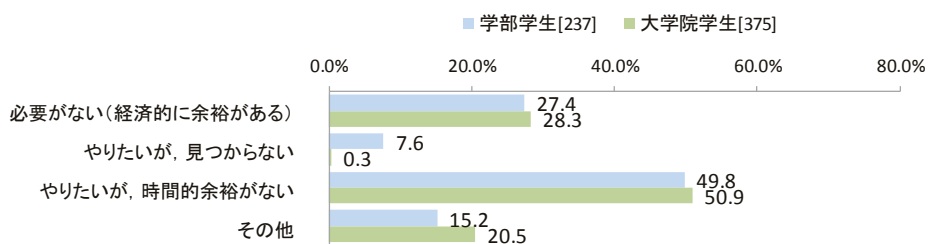
【アルバイトをする主な理由】

※アルバイト従事者ベース



【アルバイトをしない主な理由】

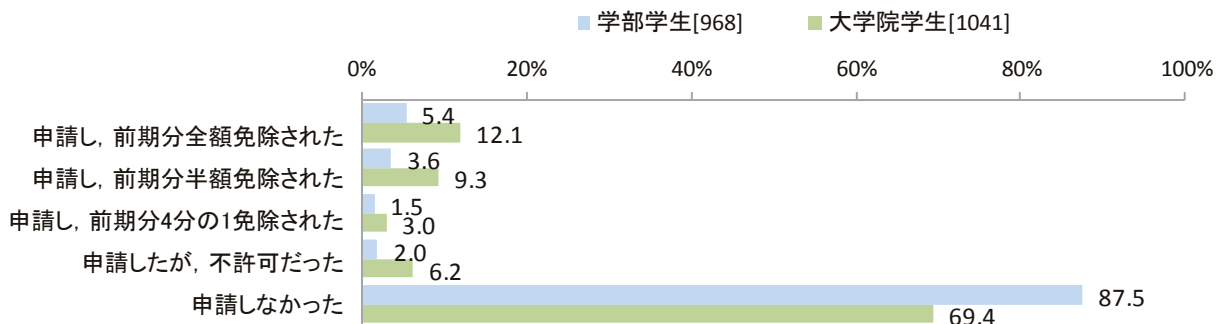
※アルバイト非従事者ベース



F 授業料免除と奨学金の利用状況

■ 授業料免除の状況

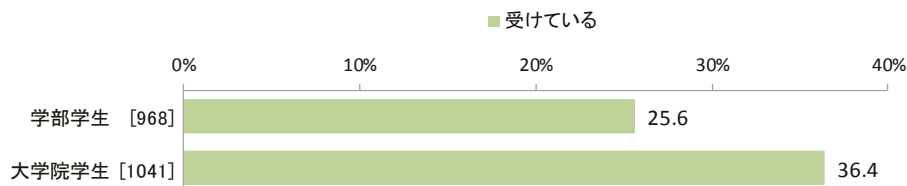
- 学部学生では「前期分全額免除」(5.4%)、「前期分半額免除」(3.6%)である。一方、大学院学生では「前期分全額免除」(12.1%)、「前期分半額免除」(9.3%)が各1割前後を占めている。
- 授業料免除を「申請しなかった」学生は、学部学生で87.5%、大学院学生で69.4%。



■ 奨学金の利用状況／奨学金の種類

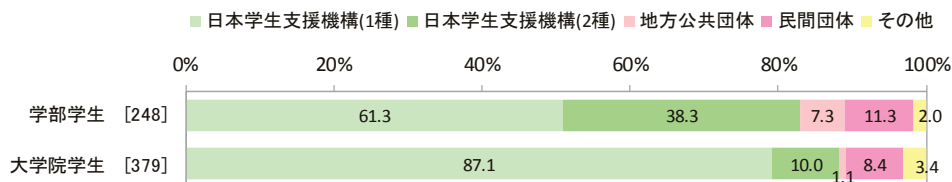
- 奨学金を利用している学生は、学部学生で25.6%、大学院学生で36.4%である。
- 奨学金の種類は、学部学生は「日本学生支援機構(1種)」が61.3%、「日本学生支援機構(2種)」が38.3%である。一方、大学院学生は「日本学生支援機構(1種)」が87.1%、「日本学生支援機構(2種)」が10.0%である。

【奨学金の利用状況】



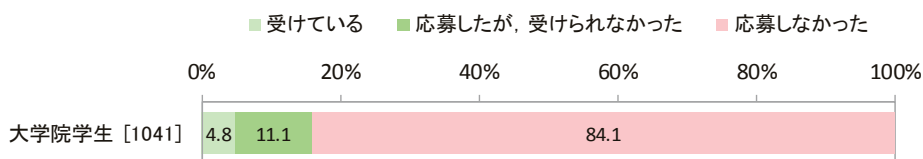
【奨学金の種類】(複数回答可)

※奨学金受給者ベース



■ 日本学術振興会特別研究員の給与(大学院学生のみ)

- 日本学術振興会特別研究員の給与を、「受けている」学生は4.8%で、「応募したが、受けられなかった」が11.1%、「応募しなかった」が84.1%を占める。

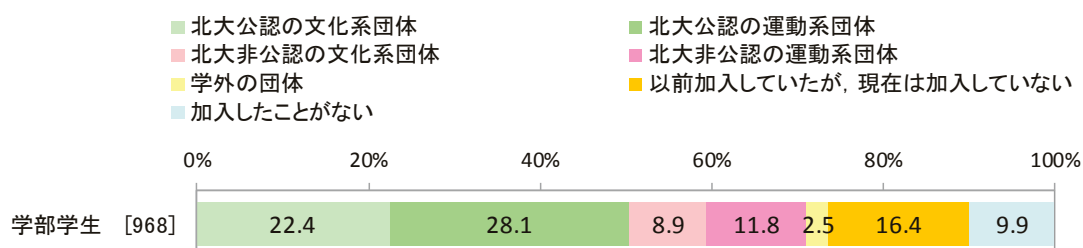


G - I 課外活動とボランティア活動 (学部学生のみ)

■ 課外活動団体への加入の有無／課外活動の週平均活動時間(学部学生のみ)

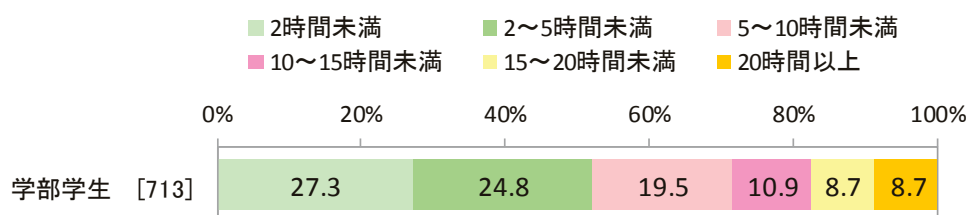
- 現在、何らかの団体に所属し活動している学生は73.7%で、加入の中では「北大公認の運動系団体」(28.1%)が最も多い。次いで、「北大公認の文科系団体」(22.4%)と続く。
- 課外活動の週平均活動時間は、「2時間未満」(27.3%)、「2～5時間未満」(24.8%)を合わせると「5時間未満」が5割以上を占める。

【課外活動の加入有無】



【課外活動の週平均活動時間】

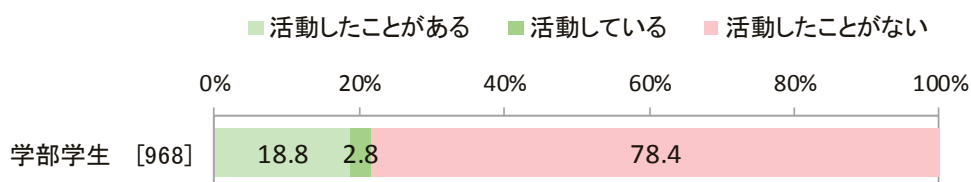
※課外活動団体加入者ベース



■ ボランティア活動の経験の有無／ボランティア活動内容(学部学生のみ)

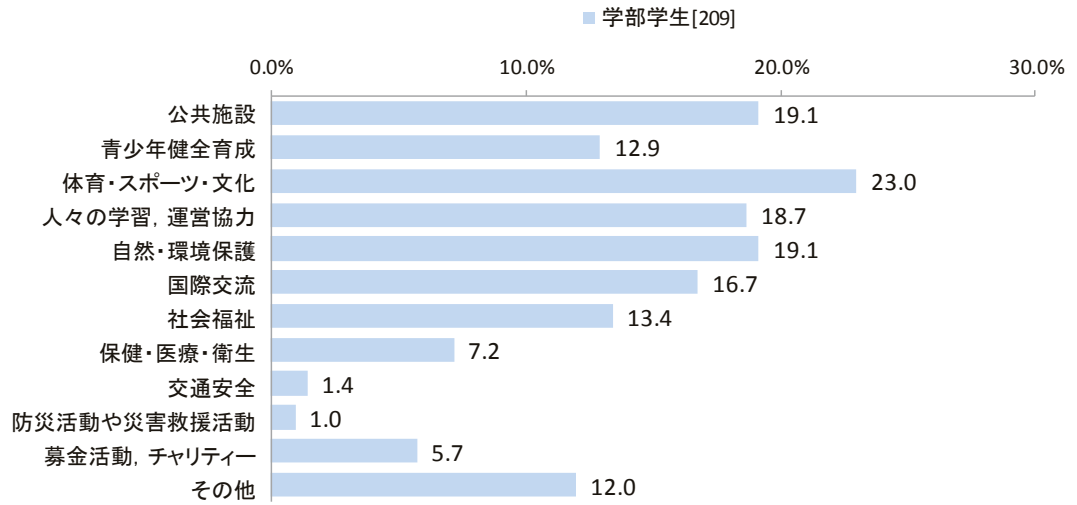
- ボランティア活動を「している」学生は2.8%。過去に「したことがある」学生は18.8%で、合わせると2割強がボランティア経験者である。
- 活動内容は、「体育・スポーツ・文化に関する活動」が23.0%、「公共施設での活動」、「自然・環境保護」がそれぞれ19.1%、「人々の学習・運営協力」(18.7%)が多い。

【ボランティア活動の経験の有無】



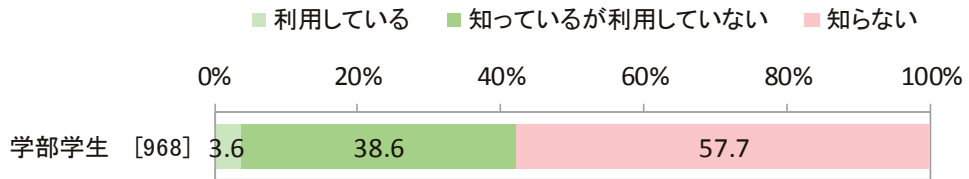
【ボランティア活動内容】(3つまで)

※ボランティア経験者ベース



■ ボランティア活動相談室の認知利用状況(学部学生のみ)

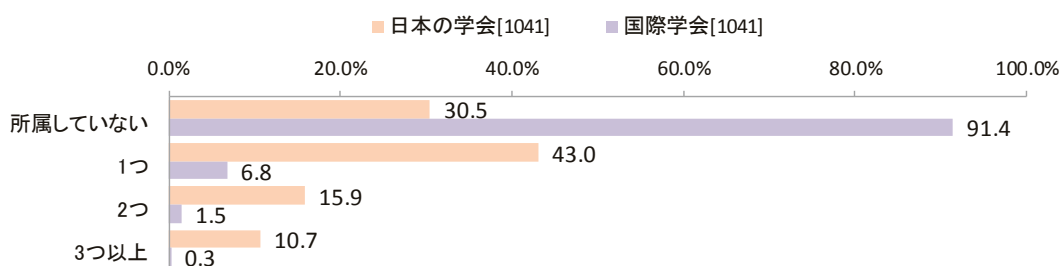
- ボランティア活動相談室を、現在「利用している」学生は 3.6%に留まるが、「知っているが利用していない」を含めた認知率は 42.2%になる。



G - II 大学院学生の研究活動 (大学院学生のみ)

■ 所属学会数(大学院学生のみ)

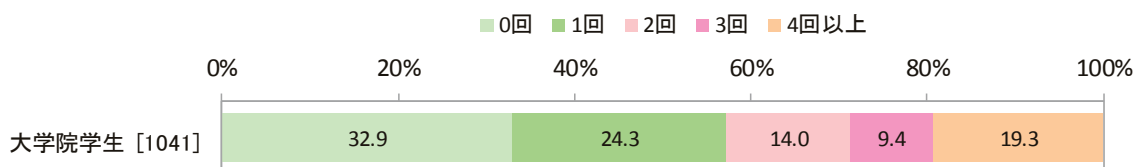
- 「日本の学会」に所属している学生は 69.6%で、「国際学会」に所属している学生は 8.6%に留まる。



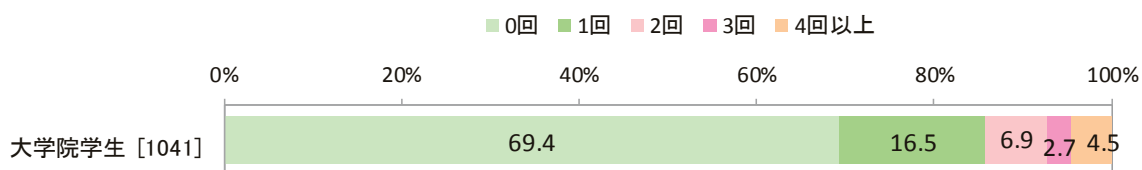
■ 研究集会・学会等の発表回数(大学院学生のみ)

- 日本の研究集会・学会等において、大学院学生の 67.1%に発表経験があり、その回数は「1 回」(24.3%)が最も多いが、「4 回以上」も 19.3%ある。
- 海外においては、30.6%の学生に発表経験があり、回数は「1 回」(16.5%)が最も多い。

【日本の研究集会・学会等の発表回数】

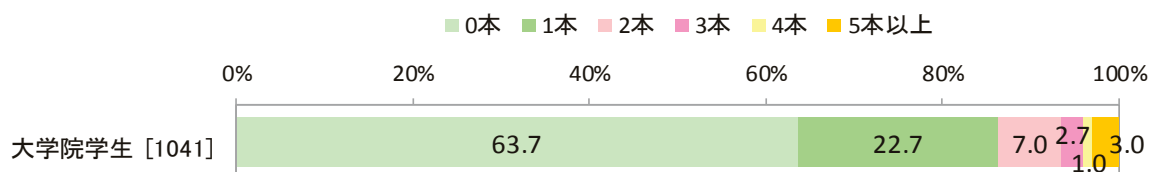


【海外の研究集会・学会等の発表回数】



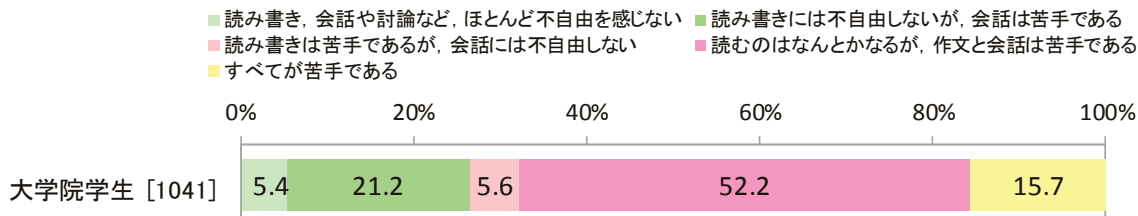
■ 論文執筆数(大学院学生のみ)

- 論文執筆数は、「0 本」が 63.7%、執筆は「1 本」(22.7%)が最も多い。



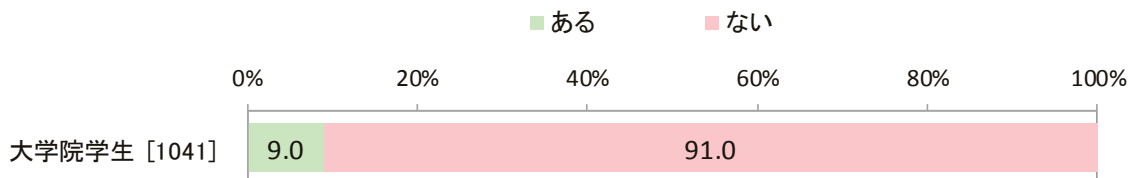
■ 外国語の能力(大学院学生のみ)

- 外国語能力は、「読むのはなんとかできるが、作文と会話が苦手である」が 52.2%と半数以上を占め、次に「読み書きには不自由しないが、会話は苦手である」が 21.2%、「すべてが苦手である」が 15.7%となっている。



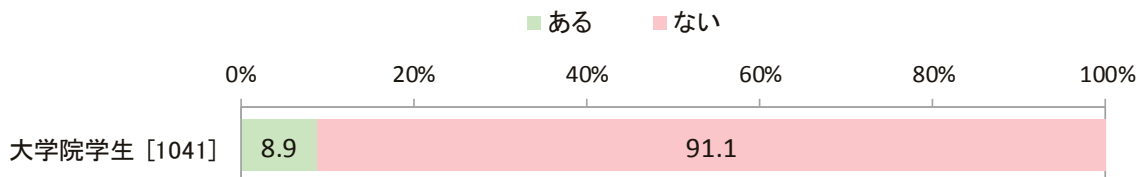
■ 海外での調査研究経験(大学院学生のみ)

- 海外での調査研究経験が「ある」学生は 9.0%である。



■ 海外留学の経験(大学院学生のみ)

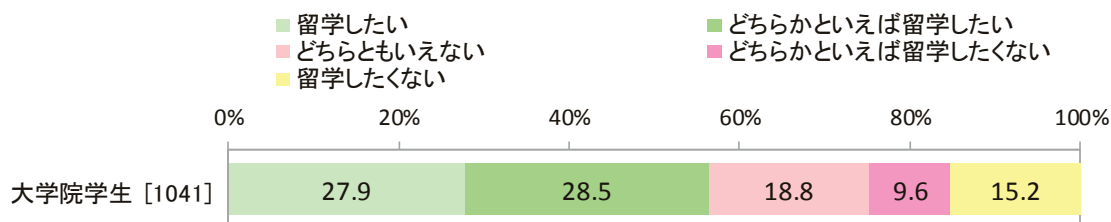
- 海外留学の経験が「ある」学生は 8.9%である。



■ 海外留学の意向／希望する留学期間(大学院学生のみ)

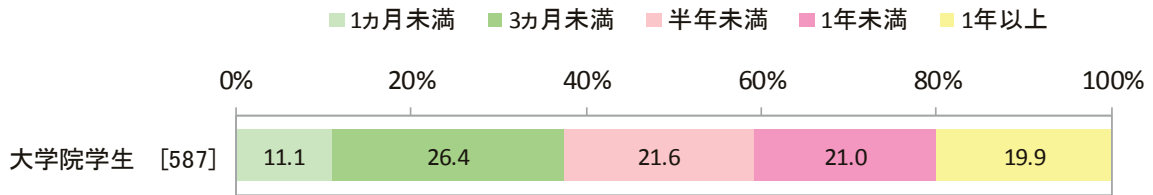
- 「留学したい」学生は 27.9%。「どちらかといえば留学したい」(28.5%)を含めると過半数が希望している(56.4%)。
- また、希望する留学期間は「3カ月未満」(26.4%)、「半年未満」(21.6%)、「1年未満」(21.0%)、「1年以上」(19.9%)と様々である。

【海外留学の意向】



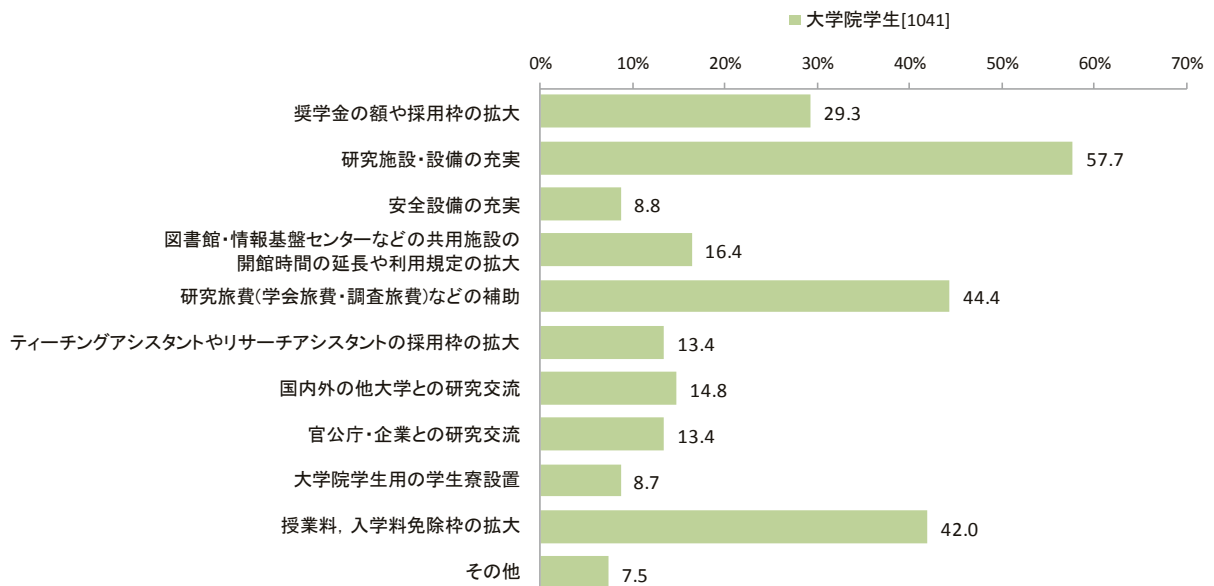
【希望する留学期間】

※海外への留学希望者ベース



■ 研究・学業を進める上で大学に要望すること(大学院学生のみ) (3つまで)

- 研究・学業を進める上で大学に要望することは、「研究施設・設備の充実」(57.7%)が最も多く、次いで「研究旅費などの補助」(44.4%)、「授業料、入学料免除枠の拡大」(42.0%)が4割強で続く。



H 北大の大学生活

■ 学生生活の満足度(学部別)

- 平均満足度は、学部学生・大学院学生ともに 3.6 点(最大 5 点満点)である。満足度の高いのは「北大・札幌の生活環境」であった。

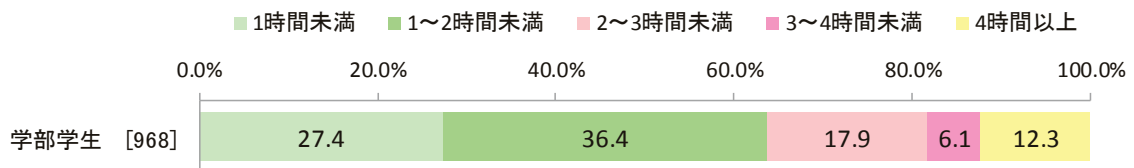
	授業	教育研究用施設・設備	その他の施設・設備	北大・札幌の生活環境	食堂・売店等のサービス	図書館	教員との関係	窓口の対応	平均満足度
学部学生 [968]	3.5	3.6	3.4	4.1	3.5	3.9	3.5	3.3	3.6
大学院学生 [1041]	3.5	3.5	3.4	4.1	3.2	3.6	3.9	3.3	3.6

(点)

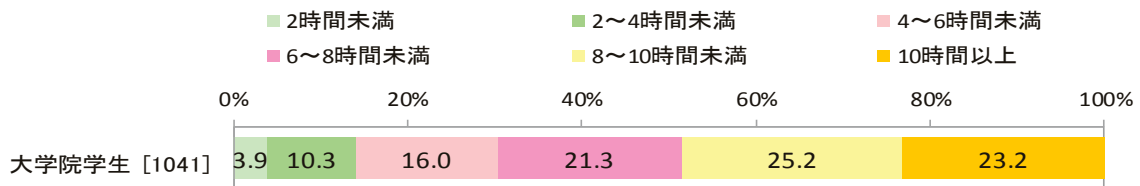
■ 一日の平均自習時間(学部別)

- 学部学生の一日の平均自習時間は、「1～2 時間未満」(36.4%)が最も多く、次に「1 時間未満」(27.4%)、「2～3 時間未満」(17.9%)となっている。
- 大学院学生は、「8～10 時間未満」が 25.2%で最も多く、次に「10 時間以上」(23.2%)、「6～8 時間未満」(21.3%)となっている。学部学生と比べると大学院学生は、一日あたりの自習時間が長い。

【学部学生】

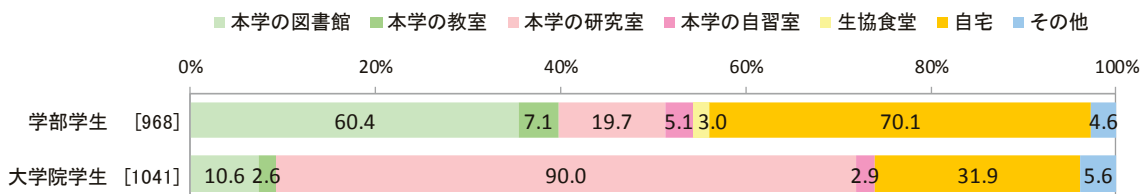


【大学院学生】



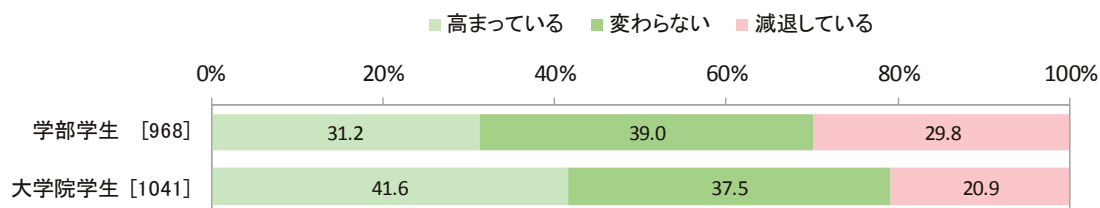
■ 自習を行う場所(2 つまで)

- 自習を行う場所は、学部学生は「自宅」(70.1%)が最も多く、次に「本学の図書館」(60.4%)が多い。
- 大学院学生は、「本学の研究室」(90.0%)が最も多く、次に「自宅」(31.9%)である。



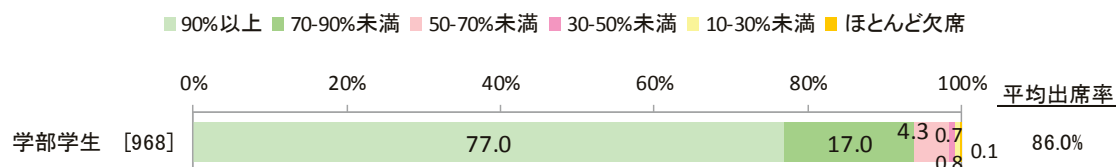
■ 入学後の学習・研究意欲(学部別/学年別)

- 入学後に学習意欲が「高まっている」学生は、学部学生の 31.2%、大学院学生の 41.6%である。



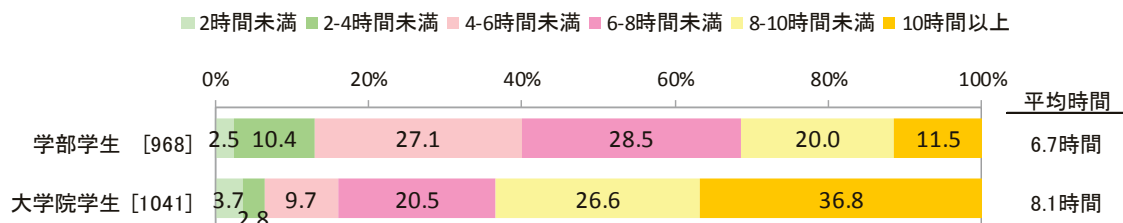
■ 授業への出席率(学部学生のみ)

- 授業への出席率は、「90%以上」が 77.0%で、平均出席率は 86.0%である。



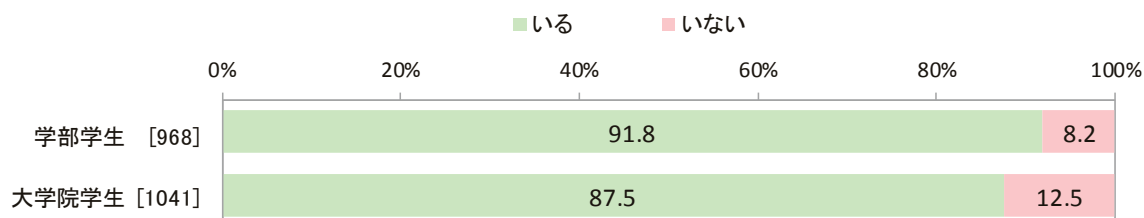
■ 大学で過ごす一日の平均時間

- 大学で過ごす一日の平均時間は、学部学生が 6.7 時間である。
- 大学院学生の平均時間は 8.1 時間であり、3分の1が「10時間以上」を大学で過ごしている。学部学生と比べて滞在時間が長い。



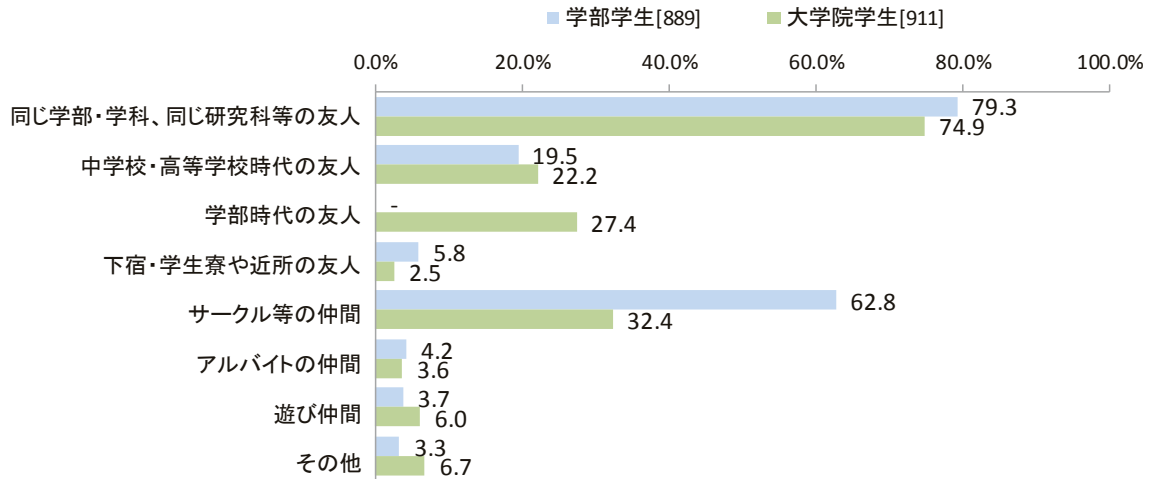
■ 仲の良い友人の有無

- 仲の良い友人が「いる」学生は、学部学生が 91.8%、大学院学生が 87.5%である。



■ 友人との関係(2 つまで)

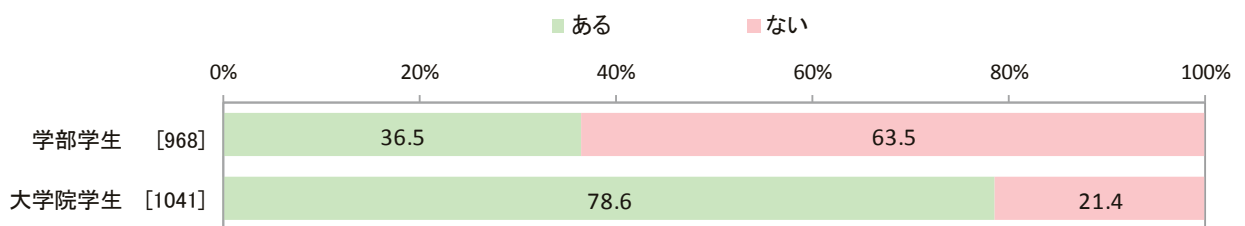
- 学部学生・大学院学生ともに「同じ学部・学科・研究科等の友人」が最も多く、次いで「サークル等の仲間」である。
- 「サークル等の仲間」については、学部学生が 62.8%であるのに対し、大学院学生は 32.4%と少ない。



■ 教員との関係

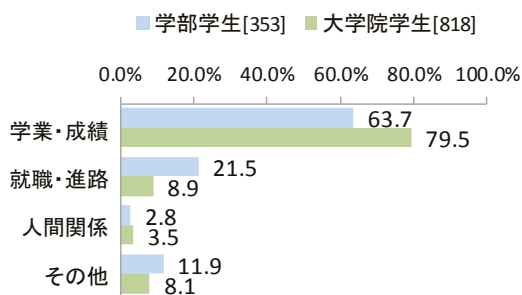
- 教員との会話・相談機会が「ある」学生は、学部学生で 36.5%、大学院学生で 78.6%である。
- 相談内容は、学部学生・大学院学生ともに「学業・成績」が最も多い。特に大学院学生が多い(79.5%)。一方、学部学生は 2 割程度が「就職・進路」をあげている。
- 相談しない学生の理由は、学部学生で「必要がない」(39.2%)や「なんとなく話しにくい」(36.9%)が多い。大学院学生は、「なんとなく話しにくい」が 43.0%、「話しても仕方がない」が 25.1%である。

【教員との会話・相談機会】



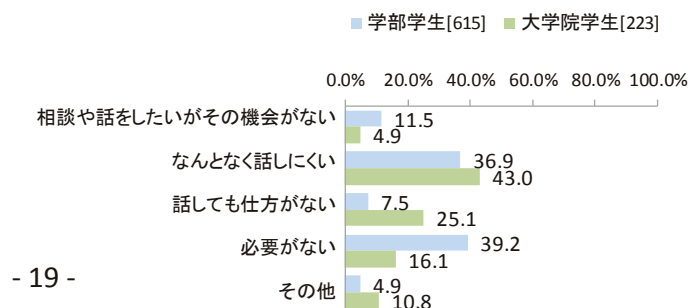
【教員との会話・相談機会】

※教員との相談者ベース



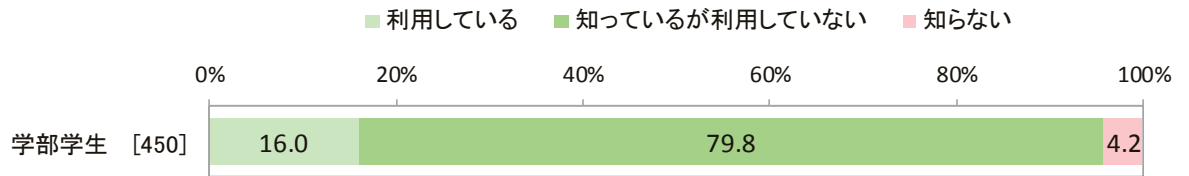
【教員との会話・相談機会】

※教員との非相談者ベース



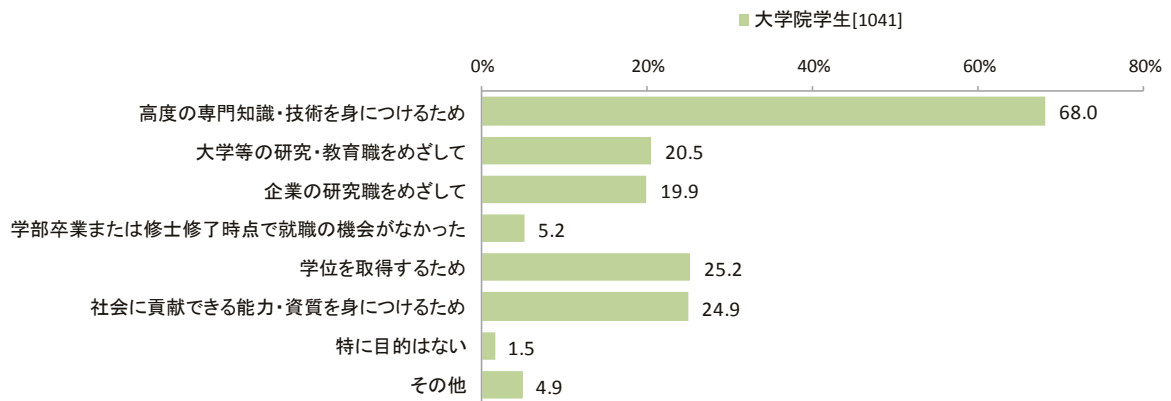
■ アカデミック・サポートセンターの認知利用状況(学部学生のみ)

- アカデミック・サポートセンターを現在「利用している」学生は 16.0%。「知っているが利用していない」学生を加えた認知率は、95.8%である



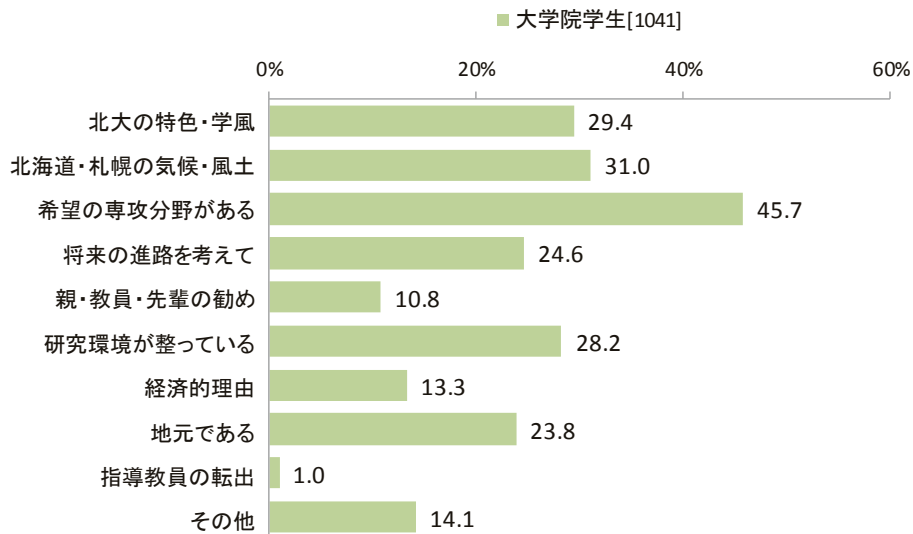
■ 大学院入学の目的(大学院学生のみ) (2つまで)

- 大学院入学の目的は「高度の専門知識・技術をつけるため」(68.0%)が最も多く、次に「学位を取得するため」(25.2%)、「社会に貢献できる能力・資質を身につけるため」(24.9%)、「大学等の研究・教育職をめざして」(20.5%)、「企業の研究職をめざして」(19.9%)が続く。



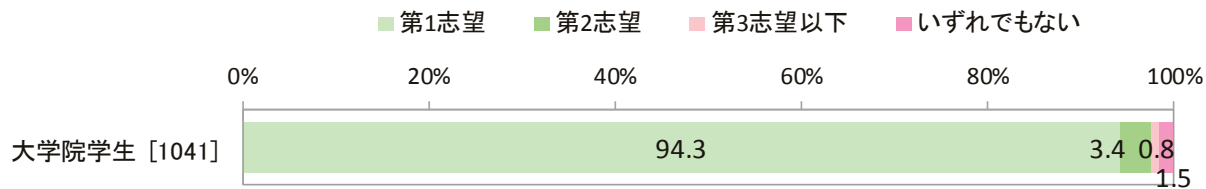
■ 北大大学院を志望した理由(大学院学生のみ) (3つまで)

- 北大大学院を志望した理由は、「希望の専攻分野がある」(45.7%)が最も多い。次いで「北海道・札幌の気候・風土」(31.0%)、「北大の特色・学風」(29.4%)、「研究環境が整っている」(28.2%)などである。



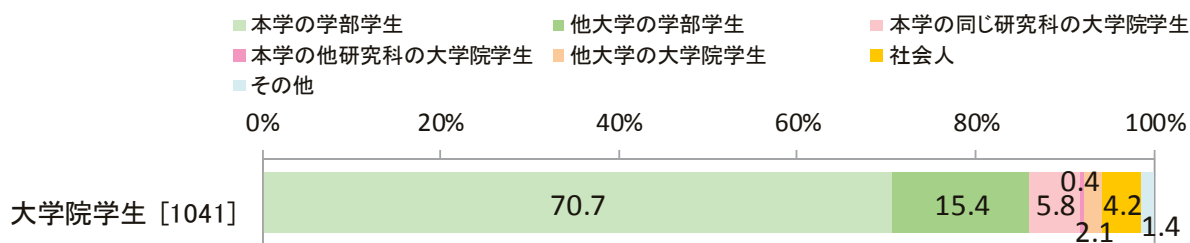
■ 北大大学院の進学時の志望順位(大学院学生のみ)

- 進学時の志望順位は、「第1志望」が94.3%に達する。



■ 大学院入学前の出身大学等(大学院学生のみ)

- 「本学の学部学生」が70.7%と最も多く、次に「他大学の学部学生」(15.4%)である。

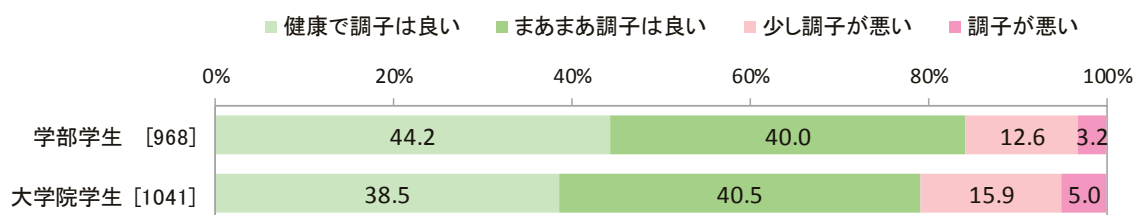


健康状態

■ 身体の調子／通院状況

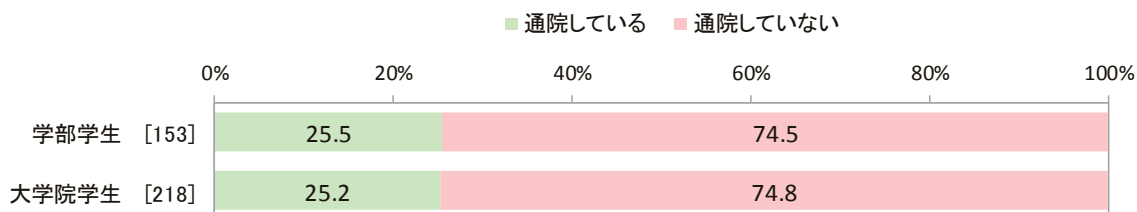
- 学部学生は、「健康で調子は良い」が44.2%で、「まあまあ調子は良い」(40.0%)を合わせた84.2%が「調子が良い」としている。大学院学生では、「健康で調子は良い」が38.5%で、「まあまあ調子は良い」(40.5%)を合わせた79.0%が「調子が良い」と考えている。
- 身体の調子が悪い学生のうち、「通院している」学部学生は25.5%、大学院学生は25.2%である。

【身体の調子】



【通院の有無】

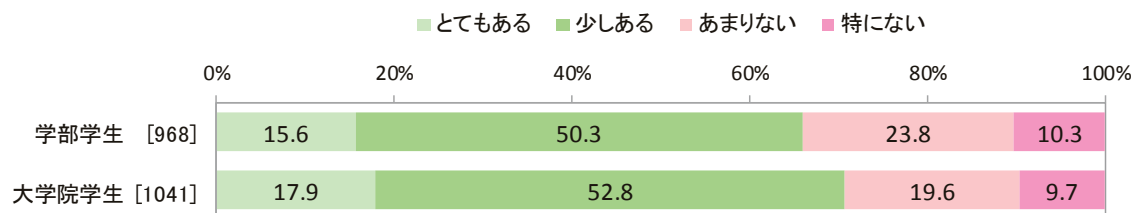
※身体の調子が悪い者ベース



■ 悩み・不安

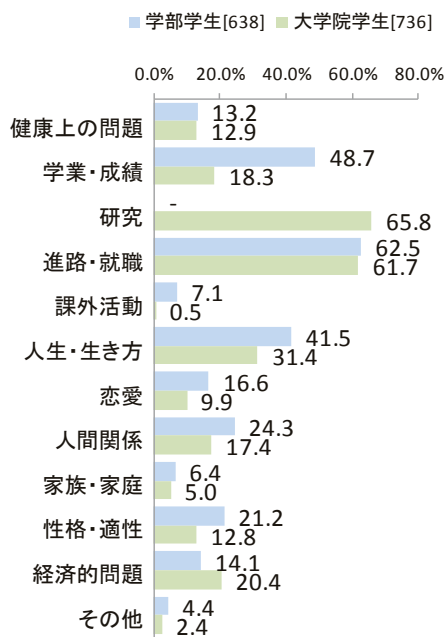
- 悩み・不安が「ある(とてもある+少しある)」学生は、学部学生が65.9%、大学院学生が70.7%である。
- 悩み・不安の原因は、学部学生は「進路・就職」や「学業・成績」「人生・生き方」、大学院学生は「研究」や「進路・就職」の比率が高い。
- 相談相手は、学部学生・大学院学生ともに「北大の友人・先輩」が最も多く5割強を占めている。次に「家族」が4割前後である。

【悩み・不安の有無】



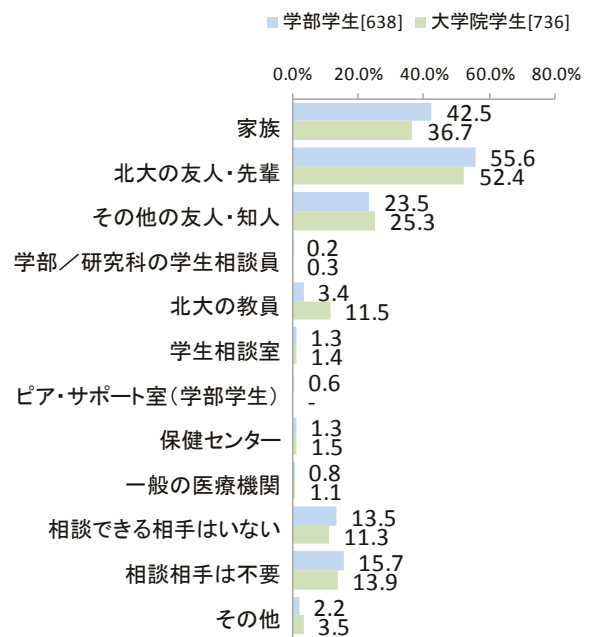
【悩み・不安の原因】(3つまで)

※悩み・不安がある者ベース



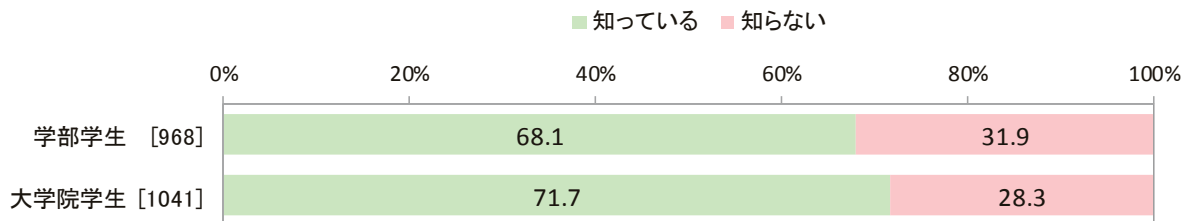
【悩み・不安の相談相手】(2つまで)

※悩み・不安がある者ベース



■ カウンセリングサービスの認知状況

- カウンセリングサービスの認知度は、学部学生が68.1%、大学院学生が71.7%である。



J ハラスメント及びカルト宗教団体等の被害状況

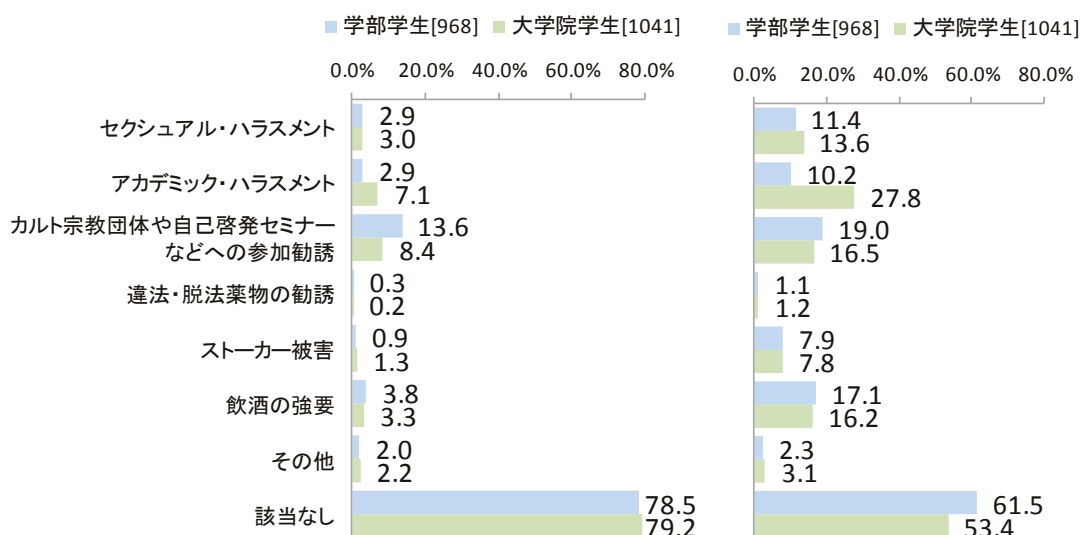
■ 自身のハラスメント等の被害経験／他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験

- 自身のハラスメント等の被害経験は、「該当なし」が、学部学生は 78.5%、大学院学生は 79.2%でおよそ 8 割である。「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」は、学部学生が 13.6%、大学院学生が 8.4%である。
- 他人のハラスメント等の被害を見聞きした経験は、「該当なし」が学部学生は 61.5%、大学院学生は 53.4%でおよそ 5～6 割である。学部学生・大学院学生はともに「カルト宗教団体や自己啓発セミナーなどへの参加勧誘」、「飲酒の強要」を見聞きした経験の比率が多い。また大学院学生は「アカデミック・ハラスメント」の比率が高い。
- 学部学生・大学院学生ともに、自身の被害以上に、他人の被害を見聞きする割合が高い。

【自身のハラスメント等の被害経験】 【他人のハラスメントの見聞き経験】

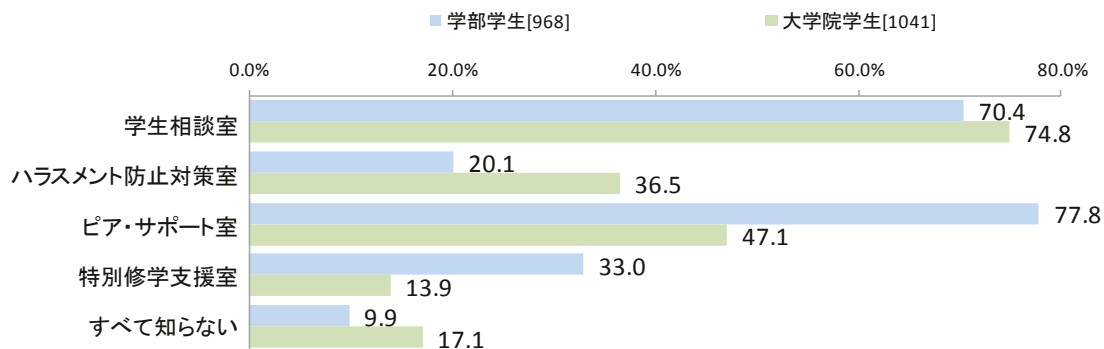
(複数回答可)

(複数回答可)



■ 学生相談窓口の認知状況(複数回答可)

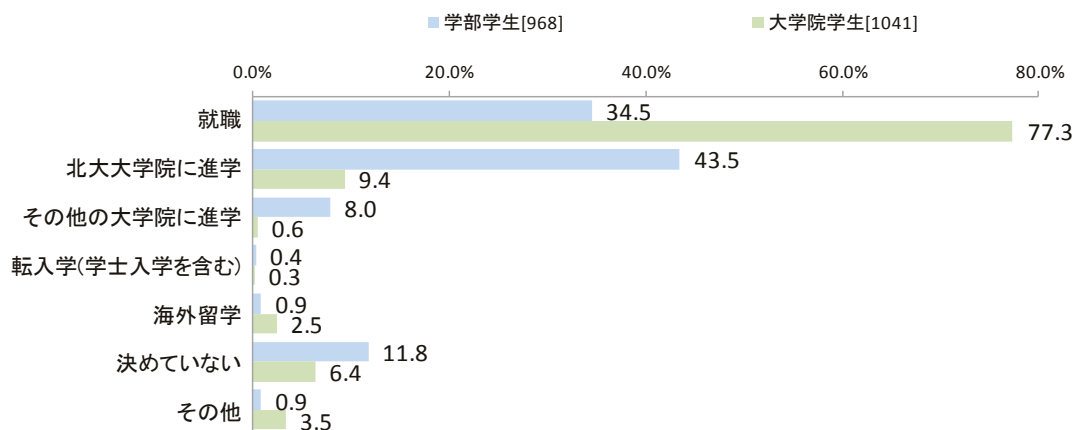
- 「学生相談室」については、学部学生・大学院学生ともに 7 割以上が認知している。「ピア・サポート室」は、学部学生の 8 割近くが認知しているが、大学院学生は 47.1%に留まる。



K 進路の希望

■ 卒業後の進路希望(学部学生)／修了後の進路希望(大学院学生)

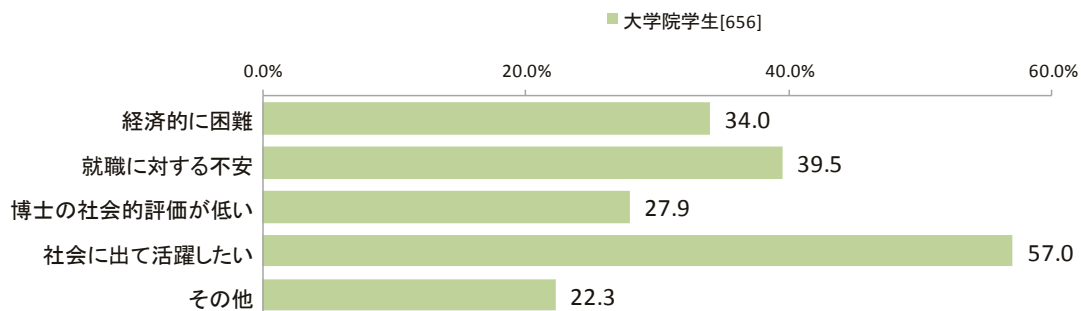
- 学部学生は、「就職」(34.5%)と「北大大学院に進学」(43.5%)に分かれる。
- 大学院学生は、77.3%が「就職」を希望している。



■ 博士(後期)課程に進学しない理由(博士(後期)課程に進学を希望しない大学院学生)

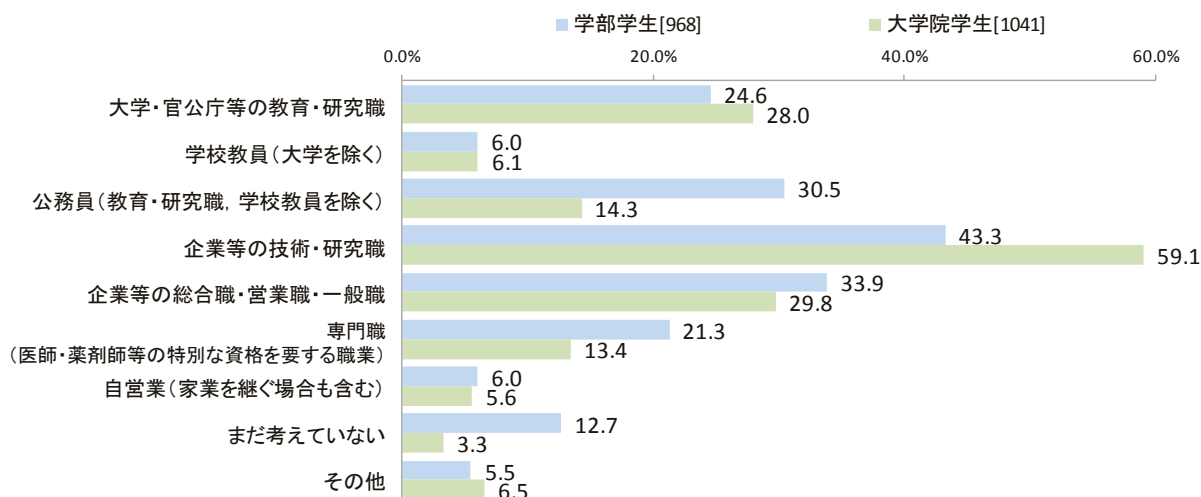
(複数回答可)

- 博士(後期)課程に進学しない理由は、「社会に出て活躍したい」(57.0%)が最も多く、次に「就職に対する不安」(39.5%)、「経済的に困難」(34.0%)となっている。



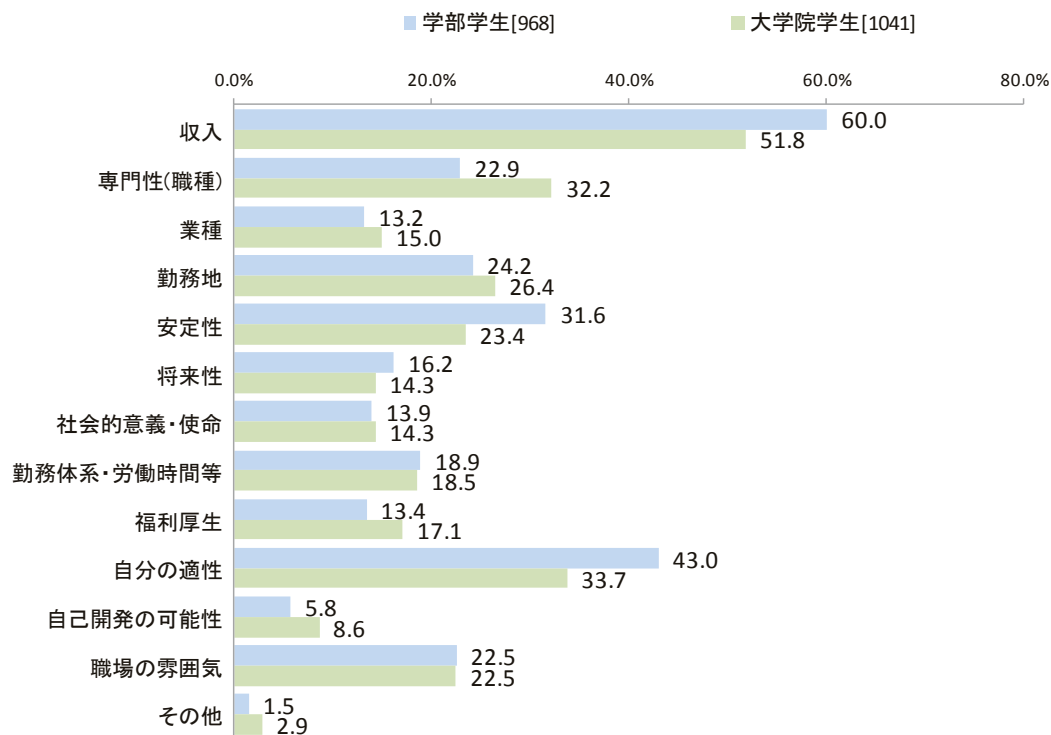
■ 希望職種(3つまで)

- 希望職種は、学部学生・大学院学生ともに「企業等の技術・研究職」が最も多く、大学院学生は学部学生と比べて多い。「公務員」や「専門職」は、学部学生の方が希望する者が多い。



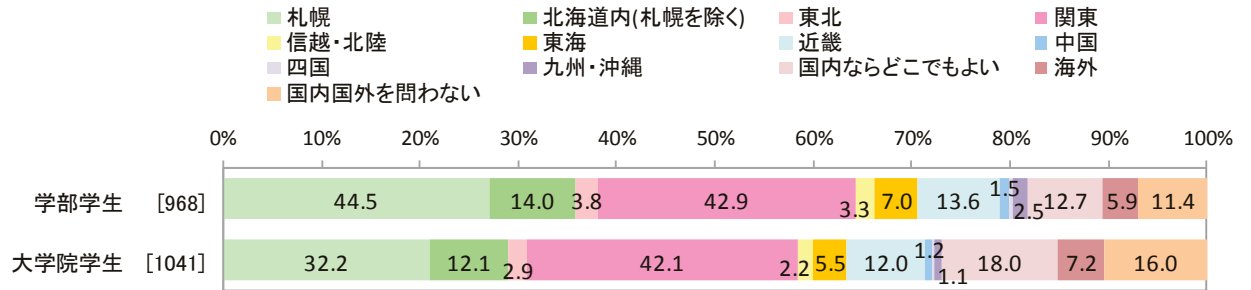
■ 就職で重要視すること(3つまで)

- 学部学生・大学院学生ともに「収入」と「自分の適性」が就職で重要視する上位1位～2位である。学部学生は、大学院学生と比べて、「収入」と「自分の適性」を重要視する傾向がある。
- 大学院学生は、学部学生と比べて、「専門性(職種)」を重要視する傾向がある。



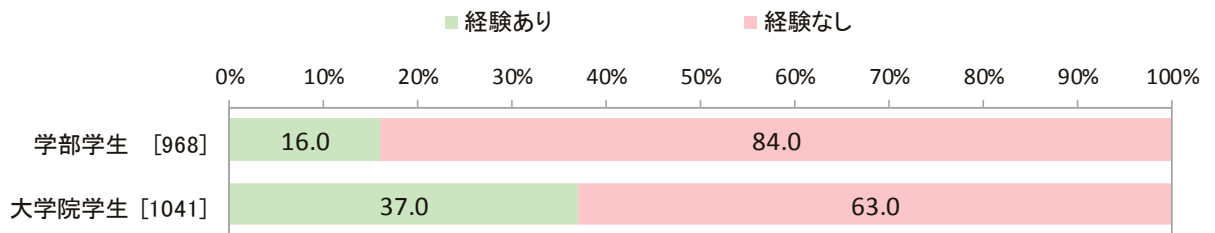
■ 就職希望地域(2つまで)

- 学部学生は大学院学生と比べて、「札幌」を希望する割合が高い。札幌を含む北海道に次いで関東への希望が多くなる。



■ インターンシップへの参加経験

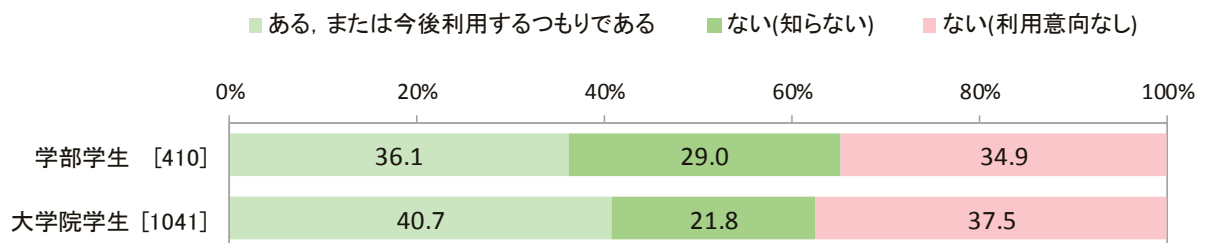
- インターンシップへの参加経験は、学部学生が16.0%、大学院学生が37.0%で、大学院学生の方が参加経験者が多い。



■ キャリアセンターの利用状況

※学部学生:3・4年時学生ベース

- キャリアセンターの利用経験が「ある、または今後利用するつもりである」学生は、大学院学生で40.7%が、学部学生(36.1%)を上回っている。



2018 年版北海道大学学生生活実態調査報告書(概要版)

発行日 2019 年 3 月

編集発行 北海道大学学務部学生支援課

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

TEL: 011-706-7469